

1. 活動報告（事務局 記）

—6月28日（土）UNCCA総会が宇部市福祉会館であり、5名の会員がつくる会として参加しました。

—7月6日（日）雨の中13名の会員の参加をえて、駐車場の草刈りや田んぼ周辺片づけと川土手草刈を実施しました。

その後での、協議事項は19日の接待は「ぜんざい」をつくり、作業はエコアップ・草取り・案山子つくりとなりました。23日と8月2日の他団体の対応は、原谷会員と前田会員で行って頂くようになりました。

—7月7日（月）中国電力（株）宇部電力所の15名の方による6日当会で刈った駐車場の草の片づけをしていただきました。途中で雨と雷がひどくなりましたので、危険なため中止していただきました。中電のボランティア活動に感謝いたします。

—7月19日（日）①親子自然観察隊行事 「稲作体験」の田んぼの手押し除草器を使った草取りをしました。親隊員6名 子隊員6名 シニア・ジュニア5名 計17名

②宇部市環境政策課主催生物多様性応援団との協働作業は、エコアップをしていただきました。田中文代市議会議員他4名 計5名

③ビオトープ全体の草刈りを会員14名で行いました。

後 須賀河内川水棲生物調査の事前整備作業と東屋横葎の刈り取りを実施。

④案山子つくりと設置主に観察隊親子

参加者は総勢36名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—7月23日（水）宇部地域環境パートナーシップ事業による見学

—8月2日（土）フジときらら子どもエコクラブ

—8月21日（木）環境サロンから宇部市北部学校環境教育学習会一行

◎行 事

—8月3日（日）親子自然観察隊（川の水棲動物）

—8月23日（土）維持活動（エコアップ・田んぼの草取り）

3. 来訪者の声

今月はありません

4. 会員の声【竹林の進捗】 (原田満洲夫 記)

7月19日ビオトープ南南西の丘（大字車地字下の岡）一帯を、関根会員・前田会員と3名で地形と植生を調査しました。

昭和の代までこの丘陵地帯は山でなく畑として車地の民の耕作地でした。5月は麦の収穫が終わるとすぐに田植えの農繁期に入り畑作業どころでなくほったらかしで荒れ放題、田植えの終わりごろになると植えみてした家からこの“下の岡”の畑に繰り出し追われていた畑仕事に入る。畑に行く仕度は田植え作業の仕度とは明らかに違い「うちは田植えが終わったのじゃ！だから畑仕事に行くのじゃ！お前方はまだ田植えが終わっちゃらんのか？」と言わんばかりの優越感を持って畑に行ったものである。

この耕地は主にラッキョが栽培されていた。当時は7月の中ごろ田植えが終わり、収穫を行って市場に出荷していた。収穫も手での掘起し・根と葉切り・水洗い・選別をして中学生であった自分が市場に運んだものである。夏休みの前半の午前は大方毎日これが続いた。勉強ましてや宿題が出来る筈もない。

・・・などと思い出しながらうっとうしい竹藪となった畑跡を確認しながら通って行った。

平坦地の畑が地籍表の形を残していて自分の親元の畑跡を通過する折には若かりし頃畑仕事や周りの景色が走馬灯のように思い浮かんだ。過っては一面のラッキョ畑で向こうまで見渡せたところが孟宗竹・真竹・淡竹の竹林となっていて、畑耕作が難しくなって植林された杉林もそのうち竹で覆われることになろう。

ビオトープ南の須賀河内川を挟んでの田んぼまでもこの”下の岡“に続く竹林になろうとしている。時代の流れだろうか？貧困すぎる農業政治のせいだろうか？それとも贅沢になれた人間のせいだろうか？

※ほったらかし⇒放ったままで何もしない

※植えみて⇒田植えが終了すること

※終わっちゃらんのか⇒ 終わっていないのか？

5. 親子自然観察隊 (田んぼの草取り) (原谷 一誠 記)

自然観察とは違った行事として、稲作体験として田んぼの草取りをしてもらいました。使った道具は、手押し除草器ですが、ぬかるんだ田んぼの稲の間をスムーズに押して行くことは非常に難しく、親子さんは手こずっていました。会員の補助のもとで、少しずつ慣れてくると、スイスイと一人でやっている子もいました。暑い中、ご苦労さんでした。終わった後で、ゼンザイとお漬物を頂きました。



親子自然観察隊 (7月19日 田んぼの草取りと案山子づくり) に参加した親子の感想

★阿部真愉さん

今日、ビオトープの田んぼの手入れをしました。農具(名前がわかりません)で稲と稲の間を押して行きました。初めは、なかなか進まなかったけど なれてきたら スイスイと早く進みました。でも、一回やって終わった時に とても肩が痛かったです。最後は農具が重いので足も痛くなりました。又 来年も 田んぼの手入れをしたいです。

★阿部さんのお母さん

初めてみた農具での田んぼの草取り…教えて頂いたように 前方を少し浮かして進むとわりとスムーズでした。進むスピードと田んぼから足を上げるタイミングがつかめるとやり易かったです。しかし 一往復しただけで 上腕から肩にかけて 随分疲れしました。

子どもは 楽しんで取り組んでいました。昔の米作りの様子を体験できてよかったです。



※事務局より

「手押し除草器」が名前です。本来は田植えを終え約1.5ヶ月頃に田んぼの草も伸びてきて、① 草を土の中に押し込む 土中の表面部分を反転することで ②新鮮な空気を入れる等を目的としています。

我々が小学高学年から中学校時代は夏休みになって日課として、必ず一人がビオトープの田んぼ位を除草器を押して済まないと川での水泳に行くことが出来なかった思い出があります。

正常植えと言って縦横の幅が約30cmくらいで稲が植えてあるので縦と横を手押し除草器を押して①②の作業を行っていました。

※ここでも宿題どころか勉強などすることが難しかったといえます。

★下川拓実くん

草を抜く機械が大変だったけど、がんばりました。かかし作り、楽しかったです。

★下川航平くん

草抜きは全然進みませんでした。おにぎりおいしかったです。

★下川くんのお母さん

草抜きは手で抜くものと思ってました。機械は予想以上の重労働でした。

★金子実侑さん

草を手で抜くかと思ったら木の道具を使って抜いたのでかんたんでした。

でも、かんたんだと思ってやっていたけどなかなかすすまないところがありました。

かかしづくりもたのしかったです。

★金子揮壱くん

道具を使っていたら、たくさんの生き物がいたのでびっくりしました。

かかしがちゃんと鳥を追い払ってくれたらいいです。

昔のお米作りは大変だったんですね。

★金子さんのお母さん

かかし作りの手際の良さに見とれていました！！

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(19) ウチワヤンマ *Sinictinogomphus clavatus*

サナエトンボ科 <ウチワヤンマ属> *Ictinogomphus* Cowley

主に平地や丘陵地の植生豊かな比較的大きな湖水、水郷地帯の溝川などに棲息します。6月～8月に見られ、国内では東北地方、四国、九州地方、外国では台湾、朝鮮半島、東アジア各地に見られます。

大きくてヤンマの種類と思われませんが、サナエトンボのなかまです。尾部に特徴があり、名前の由来となったウチワのような形をした付属器が目を引きまます。近頃では数が減り、なかなか見ることが少なくなりました。ソックリさんに”台湾ウチワヤンマ”がいますが本種の方が黄色い模様が大きく、体つきも大きめですので判別はわりと容易です。

外来魚のブルーギル、ブラックバスなどがヤゴを食べますので心配です。某ため池に”台湾ウチワヤンマ”の大発生地があったのですが、3年後、再訪したところ殆ど見られなくなっていました。池の中には”ブルーギル”が何百頭も確認されました。

ビオトープの池は小さいので定着は難しいのかもしれませんが、もう少し大きく深いと必ず定着するはずです。常盤公園の池、江汐公園の池などで見られます。

ウチワヤンマ♂ →



ウチワヤンマ♀



ウチワヤンマの羽化（深夜）

7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

- (1) 大野会員 住所変更 周南市福川3丁目10-10 新築転居です。
- (2) 8月23日(土)の活動日の実施について(田んぼの草状況を見て休憩するか否か) 次回の8月3日に協議したい。
- (3) 田んぼに今年もイナゴが発生しました、8月10日前後厚東中学校生徒会の数名がボランティア活動として来てくれます。そのほかにも駆除を実施します。

8. 編集後記

この夏止水池の端にナツツバキがたくさん蕾をつけていた。2週間後まだ1輪だけ咲いていた。ビオトープの形が出来て植物の移植の為近くを歩いた。ビオトープの奥の川の側に大きい3本のナツツバキの樹があったと思う。その1本かどうか記憶していないけれど。この木の側に植えられているネムノキはとても大きく成長し毎年ピンクのやさしい花を咲かせている。ナツツバキは元気がなく、ある時アリの侵入を目にし、このままでは駄目になるとそっと黙って駆除をしてしまった。幹は途中で切られているが今年は枝に多くの花を咲かせてくれたはずである、1輪しか目にしていないけれど。別名シャラノキ、花びらは5枚、縁に襷のある白、黄色の花糸、朝開花し夕方には落下する1日花、品のいい綺麗なやさしい花。来年はたくさん咲いたナツツバキに会いたい。

(松本 フデ子 記)